

令和2年度1学期終業式 校長挨拶

今日は1学期の終業式、1学期の節目の日です。今年は異例となりました。

新型コロナウイルスの感染拡大は止まらず、緊急事態宣言を受けて始業式・入学式に1日だけ登校した次の日からの臨時休校、課題配付のための連絡登校、郵送による課題や実力テストの配付、出席番号奇数・偶数グループに分かれた分散登校を経て、6月15日からの一斉登校、そして25日からの部活動開始と、長い道のりで学校再開にこぎつけました。

来る日も来る日も、「今日の感染者数は何人」などと同じニュースが流れ、増える感染者数を見て不安になった人も多かったでしょう。とくに三年生は受験という大きな壁の前に立ち、また休校になったら受験はどうなってしまうのだろうとさらに不安な気持ちが膨らんだと思います。

新しい生活様式により、今までの当たり前が当たり前でなくなり、多くの活動に制限がある中での戸惑いや不安な気持ちを乗り越え、お盆休みに間もなく入るこの時期まで、頑張り抜き、今日の終業式を迎えることができたみなさんを誇りに思っています。

みなさんが毎日元気に学校に来てくれているから印西中学校があります。このような社会情勢の中でも、変わらず自然にさわやかな挨拶を交わし、素直な優しい気持ちで人と接するみなさんの温かい心と日々たくましく成長していく姿を見て、先生方も今学期みなさんと同じように大変でしたが、もっといい印西中学校を創っていこうという思いがさらに強くなりました。ありがとうございました。同時に長期間にわたる臨時休校中、ご協力をいただいた、誰よりもみなさんのことを大切にしている保護者の方にも深く感謝しなくてはならないと思っています。

さて、今、各学年の代表のみなさんから、1学期の成果と課題についての発表がありました。

みなさん一人一人は、自分が立てた目標は、どうだったでしょうか。自分自身のことを自分で見つめてみてください。目標達成に向けてうまくいったと思う人は、なぜよかったのかを考えてください。しっかりと考えておかないと、うまくいったことが偶然で終わってしまいます。うまくいったときこそ、よく振り返り、その次も、またその次もうまくいくよう、偶然大きく

ったのではなく、うまくいったことを何度でも再現できるようによく分析しておきましょう。偶然の力ではなく、必然の力、それが実力です。分析してみて、目標達成に有効だと思われる取り組みが、よりよい習慣となります。習慣は現実を変える大きな力となります。

目標達成に向けてうまくいかなかったと思う人は、その原因を考えてみましょう。原因は自分でよくわかっている人もいれば、「自分なりにがんばったのだけれど」という人もいるでしょう。どうすれば、伸びるのかを自分のことばで考えてみてください。人はかわれます。かわる勇気をもてば必ずかわれます。

担任の先生や教科の先生、私でもかまいません。「自分は自分の課題をこのように感じていて、こういう方法で自分自身を伸ばそうと思っているのですが、先生はどう思いますか」と相談してみてください。自分で自分のことを本気になって考えて、質問すれば、必ずよいアドバイスが得られます。

本気になれば変れます。本気になれば誰かが助けてくれます。本気になれば習慣が変わります。習慣がかわれば、現実を変えることができます。

さて、この後、通知表が渡されますが、一つ一つの項目をよく見て、振り返ってみてください。いろいろな角度から自分を見つめ、夏休みをどう過ごすか、2学期は何を頑張ればよいのかたくさんのヒントが見つかります。

今年の夏休みは、いつもとはちがう16日間の夏休みになります。

みなさん一人一人が思い描いている夏休みを実現するために、一番重要なものが、生活のリズムです。

くわしくは、この後の小山先生の夏休みの生活についてのお話をよく聞いてください。それでは、引き続き感染症対策と熱中症対策を万全にして、始業式のある8月24日に登校し、元気に挨拶を交わしましょう。